

## 1. 計画の位置づけ

- 「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は、法律に定められた計画で3年を1期として策定
- 老人福祉法第20条の8の規定に基づく「市町村老人福祉計画」と介護保険法第117条の規定に基づく「市町村介護保険事業計画」を一体化した計画
- 現在の7期計画が今年度末で期間を満了するため、新たな8期計画を策定中

H30	R01	R02	R03	R04	R05
第7期			第8期		

## 2. 社会情勢

- 高齢者数は97,813人、認定者数は14,539人(2020.4現在)で、ともに増加傾向
- 2025年には65歳以上の5.5人に1人が認知症となる見込み
- 支援を必要とする市民の課題が多様化、複雑化
- 「1億総活躍社会」に向けて、2020年代初頭までに家族の介護を理由とした離職防止(介護離職ゼロ)を推進
- 新型コロナウイルスの感染予防を踏まえたポストコロナへの対応

## 3. 国の示す計画のポイント

- 2025年・2040年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備
- 地域共生社会の実現
- 介護予防・健康づくり施策の充実・推進
- 認知症施策推進大綱等を踏まえた認知症施策の推進
- 地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び業務効率化の取組の強化
- 災害や感染症対策に係る体制整備

## 4. 市民等からの意見聴取

高齢者等実態調査などのアンケート調査や、市民や関係団体などから様々な機会を捉えて幅広く意見を聴取。これらの意見等を参考に計画の方向性や施策・事業等を立案

意見等をいただいた方・団体	市民、高齢者、要支援者、要介護者とその家族、介護事業所、現場の介護職員、ケアマネジャー、自治区長、民生委員・児童委員、サービス利用者とその家族、区長会、民生委員児童委員協議会、高齢者クラブ、市民活動団体(介護予防講座、芸能披露、有償ボランティア)、傾聴ボランティア、ファミリー・サービス・クラブ、市民活動センター、市民活動実践者、認知症地域支援推進員、介護相談員、若年性認知症本人・家族会、介護サービス機関連絡協議会(ケアサポ会)、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、地域包括支援センター、民間企業、先進自治体、大学教授、中学の先生・生徒
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険の仕組みを知らない人が多いと思う(家族介護者)</li> <li>いつでも相談できるところがあると心強い(家族介護者)</li> <li>なるべく介護を受けないようにしたい(市民)</li> <li>高齢者向けの活動をしているのに、上手く高齢者に情報が届かない(市民活動団体)</li> <li>属性が似た団体が集まる交流会があるとよい(高年大学出身者)</li> <li>地域で活躍している高齢者を多くの市民に知ってもらう取組が必要である(地域団体)</li> <li>高齢者が働いたり、ボランティアに参加できる環境を整える(介護事業所)</li> <li>高齢者の移動手段の充実が必要である(市民・家族介護者等)</li> <li>移動の支援を求められるが事故が懸念されるためお断りしている(ボランティア活動者)</li> <li>介護職の方の支援の充実が必要である(市民)</li> <li>家族が介護をしているのを見て、私も高齢者の役に立つ仕事をしたいと思った(介護職員)</li> <li>介護に関心を寄せてもらうために、小中学生も含めた若年層に関わってもらう(ケアマネジャー)</li> <li>低学年から認知症について学ぶ機会を設ける(家族介護者)</li> </ul>

## 5. 目指す姿と基本目標

(目指す姿)「おもいやりのまち  
～安心して自分らしく生きられる支え合いのまちづくり～」

**おもいやり：相手の気持ちに寄り添うこと**

- 他者を自分ごとで考える(我が事)
- 垣根を越えてつながる(丸ごと)
- 誰一人取り残さない(SDGs)
- 価値観は多様である(ダイバーシティ)

**基本目標Ⅰ**  
「自分らしく生きられる支え合いのまちづくり」  
年齢や身体状況に関係なく、誰もが多様な価値観を認め合い自分らしく活躍できる取組を推進

**基本目標Ⅱ**  
「安心して生きられる支え合いのまちづくり」  
住み慣れた地域で安心して生きられるように、制度・分野・官民の垣根を越え、他者を思い合うまちに向けた取組を推進

**基本目標Ⅲ**  
「支え合いを推進するための基盤づくり」  
誰もが支え合いながら生きられる基盤を整備

## 6. 計画の指標案

- 総合指標の設定【新規】** ※計画全体の取組成果の目印として設定
  - 高齢者の幸せ感が高い人(7点以上)の割合：71.9% (2019年度) ↑ ※とても幸せ10点、とても不幸を0点で回答
  - 高齢者が安心して暮らすことのできるまちとして満足している市民の割合：41.4% (2019年度) ↑
- 成果指標の設定【新規】** ※各重点施策の取組成果の目印として設定(各重点施策については裏面参照)
  - 重点施策①【参加度】会・グループへ月1回以上参加している高齢者の割合：60.8% (2019年度) ↑
  - 重点施策②【認知度】高齢者の介護や福祉の相談窓口(地域包括支援センター)の認知度：69.2% (2019年度) ↑
  - 重点施策③【承認度】認知症の人を理解し、協力している市民の割合：9.2% (2019年度) ↑
- 活動指標の設定【継続】** ※個別の事業の取組実績の目印として設定
  - 集いの場へのコーディネート機関連数、現任介護職員研修回数、認知症サポーター養成講座受講者数等

## 7. 計画の施策・事業案

- 社会情勢、国の示すポイント、市民等からの意見聴取等を踏まえ、8期計画の目指す姿・基本目標、施策・事業を設定
- ポストコロナを見据え、感染症対策を徹底し、本市策定予定の(仮)豊田市ICT活用アクションプラン等と整合を図りながら、各事業を推進
- 計画の施策・事業案については、裏面参照

本日の協議ポイント

## 8. スケジュール

月	内容	主な議題 ※カッコ内は協議回数
令和2年6月	第1回分科会(6月30日)	8期計画の目指す姿・基本目標、人口推計・認定者推計
8月	第2回分科会(8月21日)	7期計画進捗状況、8期計画事業案(①)
10月	第3回分科会(10月23日)★今回	8期計画の事業案(②)、施設整備計画案(①)
12月	第4回分科会(12月22日)	施設整備計画案(②)、給付費推計・介護保険料(①)
令和3年1月	パブリックコメント	-
2月	第5回分科会(2月12日)	給付費推計・介護保険料(②)

## 9. 重点施策と主な重点事業案

### 重点施策① 介護予防・健康づくりに通じる社会参加

#### 高齢者の生きがいづくり支援

セカンドライフの活躍の場につなげるための高齢者の活躍事例集の展開やシニアアカデミー等から行政・地域ニーズに応える就労やボランティアにつなげる支援を実施

【本事業によって期待される効果】  
 高齢者の多様な社会参加・市民活動が促進される

#### 集いの場へのコーディネート

高齢者の社会参加の促進のため、地域包括支援センターや交流館などの集いの場へのコーディネート機能を強化。また保健師が健康相談や地域イベント等で集いの場へのコーディネートを実施

【本事業によって期待される効果】  
 今まで集まりなどに参加できなかった高齢者も社会とのつながりを持てる「はじめの一歩」となる

#### ボランティアによる移動支援

移動が困難な人でも集いの場などに社会参加できるようボランティア輸送の仕組みを整備

【本事業によって期待される効果】  
 これまで参加したくても、移動手段がなくあきらめていた人の社会参加が促進される

#### リハビリ専門職との連携

作業療法士などのリハビリ専門職が短期集中型の介護予防を行い、集いの場へ誘導。また包括職員の研修等でリハビリ専門職の技術的助言を実施

【本事業によって期待される効果】  
 専門的な視点で参加者の介護予防を実施するとともに効果・定着を図る

### 重点施策② 地域共生を支える体制整備

#### 重層的支援体制の整備

高齢、障がい、子ども・若者、困窮の分野の連携を図り、属性や世代を超えた課題に対して取りこぼしのない支援

【本事業によって期待される効果】  
 身近な地域で相談ができ、分野を超えた案件についても適切な支援につながる

#### 見守りネットワークの強化

見守りの充実・効率化のため、見守り情報の集約化と不足する活動を補完する仕組みを構築

【本事業によって期待される効果】  
 見守り情報を多職種で共有・連携できるようになり、日常の見守りに限らない、迅速な支援につながる

#### マネジメント層へのキャリアアップ支援

これまで実施してきた現場職員への研修等に加え、マネジメント層の経営者や中核人材にも研修等を実施

【本事業によって期待される効果】  
 経営者・中核人材の養成を通して、他産業に勝る働く人の価値観に合った魅力（職場環境、組織風土）を創出し、人材の定着と新規採用につながる

#### 豊田訪問看護師育成センター

訪問看護師の人材確保・育成事業について、かかりつけ医の看護師も事業対象に拡大

【本事業によって期待される効果】  
 今後ニーズが増加する在宅療養を支える人材が増える

### 重点施策③ 社会全体で取り組む認知症支援

#### 認知症サポーターを中心とした支援チームづくり

認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組みを構築

【本事業によって期待される効果】  
 認知症の人や家族が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりが進む

#### 認知症の早期発見

早期発見のための啓発、チェックリストの実施勧奨、企業内での認知症の理解促進など

【本事業によって期待される効果】  
 認知症の早期発見によって、認知症の方やその家族の早めの支援につながる

#### 認知症の人の社会参加の仕組みづくり

企業や介護サービス事業所の連携による認知症の人の「はたらく場」の創出

【本事業によって期待される効果】  
 認知症の人の特性や希望に応じた活躍の場が創出され、地域で生きがいを持った生活ができる

#### 若年性認知症本人・家族会

診断後間もない人や若年性認知症の人の交流や、本人発信のミーティングの機会を創出

【本事業によって期待される効果】  
 若年性認知症の方の負担の軽減などにつながる

## 10. 計画体系について

分野	施策	主な事業案
地域共生	(1)市民理解の促進	<input type="checkbox"/> 学校教育における高齢者の理解促進 <input type="checkbox"/> 出前講座の実施
	(2)市民参加の支え合い	<input type="checkbox"/> 豊田市ささえあいネット <input type="checkbox"/> お元気でさポランティア養成
	(3)見守りの推進	<input type="checkbox"/> 見守りネットワークの強化
	(4)重層的な支援	<input type="checkbox"/> 重層的支援体制の整備 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センターの円滑な運営
	(5)関係機関との連携	<input type="checkbox"/> 在宅医療・福祉連携の推進 <input type="checkbox"/> リハビリ専門職との連携
介護予防・健康づくり	(1)ふれあい・健康づくり	<input type="checkbox"/> 集いの場へのコーディネート <input type="checkbox"/> 元気アップ教室
	(2)生きがいづくり・就労支援	<input type="checkbox"/> 高齢者の生きがいづくり支援 <input type="checkbox"/> とよたシニアアカデミー
認知症	(1)普及啓発・本人発信支援	<input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座 <input type="checkbox"/> 認知症本人発信支援
	(2)認知症予防	<input type="checkbox"/> 認知症の早期発見
	(3)認知症本人・介護者への支援	<input type="checkbox"/> 認知症カフェの推進 <input type="checkbox"/> 若年性認知症本人・家族会
	(4)バリアフリーの促進と社会参加	<input type="checkbox"/> 認知症サポーターを中心とした支援チームづくり <input type="checkbox"/> 認知症の人の社会参加の仕組みづくり
介護人材	(1)介護に関わる人材支援	<input type="checkbox"/> マネジメント層へのキャリアアップ支援 <input type="checkbox"/> 介護職チームケア向上支援 <input type="checkbox"/> 豊田訪問看護師育成センター <input type="checkbox"/> 国内人材の創出
災害・感染症	(1)災害の備え	<input type="checkbox"/> 福祉事業所の災害体制強化策の推進
	(2)感染症の備え	<input type="checkbox"/> 介護事業所への啓発・指導
日常生活	(1)生活支援	<input type="checkbox"/> 「食」の自立支援（配食サービス） <input type="checkbox"/> すこやか住宅リフォーム
	(2)家族介護支援	<input type="checkbox"/> 家族介護交流事業 <input type="checkbox"/> 家族リフレッシュショート利用
	(3)住まいの支援	<input type="checkbox"/> 軽費老人ホーム <input type="checkbox"/> シルバーハウジング
	(4)移動支援	<input type="checkbox"/> ボランティアによる移動支援 <input type="checkbox"/> ひとり暮らし高齢者等移動費助成